

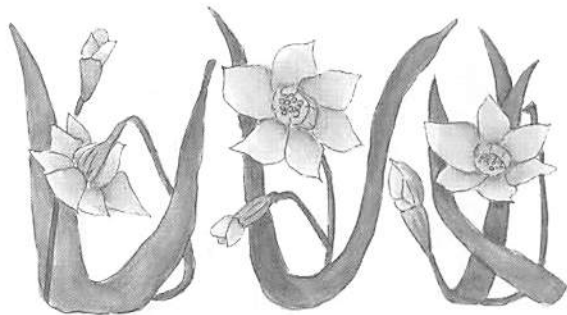
主 張

中学校教育七〇年、そしてその先へ

直 田 益 明

あげましておめでとうございます。今年も皆様にとって佳き年でありますことを心より
祈念申し上げます。

さて、昨年十月十九日、二十日の二日間にわたり、東京国際フォーラムにおいて全国から約三、八〇〇人の皆様をお迎えして、「中学校教育七〇年記念第六八回全日本中学校長会東京大会」を無事開催することができました。一日目の午前中に挙行しました「中学校教育七〇年記念式典」は、厳肅な雰囲気の中で、全日本中学校長会にとって大変意義深い式となったと思います。皇太子同妃両殿下の御台臨を仰ぎ、皇太子殿下からおことばを賜るという榮譽を授かるとともに、参議院議長、文部科学大臣からも大変温かいおことばをいただき、私たちの背中を力強く押していただきました。私たちは、このことをしっかりと心に刻み、期待に応えていかなければならないと強く感じるところです。一日目午後からの研究大会は、全体協議会において北海道地区及び四国地区から発表していただくとともに、他の各地区からは誌上発表をしていただきました。また、二日目は文部科学省説明や大村智先生から御講演をいただきました。これらの内容を通して多くの示唆を得ることができたと考えております。これも皆様の御支援・御協力の賜であると深く感謝申し上げます。



す。

この度の記念式典の準備の中で、本会の機関誌「中学校」の創刊号の巻頭言をはじめ、七〇年間の全日中や中学校教育に関する様々な資料を読む機会がありました。本会は教育の機会均等や教育水準向上の実現など高貴な理想の下で発足したことや、現在までのそれぞれ各時代の校長たちが、多種・多様な課題と向き合い解決に力を尽くしてきたおかげで、今の中学校があることを改めて実感しました。イギリスの元首相のチャーチルが「過去をより遠くまで振り返ることが出来れば、未来をより遠くまで見渡せるだろう」という言葉を残したそうですが、中学校教育の歴史を辿ることは、これから先の中学校教育を考える上で大きな意味のあることであると考えます。

社会の大きな変化の中にあつて、学校教育に求められるものは年々多岐にわたつております。現在の日本の教育界においても、様々な教育改革が行われ、新たな制度の構築や新学習指導要領への対応、いじめ防止対策など中学校教育は重要な局面を迎えています。資源の乏しいと言われるこの日本において、人こそが大きな資源であり、変化の予測が難しいこれからの時代にあつても、我が国が十分な存在感をもつて世界をリードしていくために教育が果たす役割は、限りなく大きいものであると考えます。日々、多忙さの中にと、目の前のことだけに目を奪われてしまうこともあります。私たちが校長はしっかりと先を見つめ、リーダーシップを発揮し、現在の中学生だけでなく、これから先に中学生になる子供たちのためにも全力で努力していきたいと、年の初めに決意を新たにいたしました。

(全日本中学校長会会長・世田谷区立芦花中学校長)